



バンコクジェム&ジュエリーフェアレポート

藤田益久

2月24日から28日、第57回バンコクジェム&ジュエリーフェアが開催された。このフェアは毎年2月下旬と9月上旬に行われる。会場はバンコクの北のムトントニにある、インパクト（エキジビション&コンベンションセンター）で、ホール面積80,000㎡に30カ国、約1,800社の出展であった。主催はGJPCT（タイ宝石、宝飾、貴金属連盟）とTGJTA（タイ宝石、宝飾協会）である。

今年、新しく「タイランド：世界のルビーの首都」というテーマを挙げ（4月にはホスト国として第1回ルビーシンポジウムを開催予定）、バンコクを宝石・宝飾の中心であることをPRしてフェアの発展を目指している。

今年は、新しく「タイランド：世界のルビーの首都」というテーマを挙げ（4月にはホスト国として第1回ルビーシンポジウムを開催予定）、バンコクを宝石・宝飾の中心であることをPRしてフェアの発展を目指している。

昨年は開場前からかなりの人出で長い列ができ、会場内に入るまでに時間がかかったのだが、今年は初日の24日朝それほどの混雑は感じなかった。

会場はジュエリー、ジェムストーン、そしてシルバージュエリーの3つのカテゴリーが中心となりほぼ同規模で並んでいる。会場を端から端まで丁寧に歩いてみると1日半かかる。ジュエリーはダイヤモンドから広いヴァリエーションでカラーストーンを使用したものが楽しめる。タイといえばジェムストーンのイメージだが、展示されているものの多くはアジア、アフリカを産地としたものだ。そしてシルバージュエリーの生産は世界中の6割に及ぶシェアを持つということで、ブランド、ハイクオリティーのものからロープライスのものまで、ボリュームもデザインもとても幅が広い。

いつもこのフェアで楽しみにしているのは、会場の端っこに設置されている、近隣のミャンマー、カンボジア、ヴェトナムの出展者の小さなブースの集まるエリアである。それぞれの産地から持ち寄られた、スタールビー、スターサファイア、スピネル、ジェイダイトのルースと彫り物などの中に、今の日本の市場ではあまり見掛けなくなった昔ながらの味のある良いものに出会うことがあるのである。

最近品不足でルビー・サファイアの価格が上がり続けており、質が良く適正と思われるものを見つけるのがますます困難になっているのであるが、「世界のルビーの首都」と謳うのであれば何とかして欲しいものだ。

また、会場内に設置されたデザインパビリオンには、タイのシリキット女王所有の宝飾品・ジュエリーを展示した特別ブースをはじめとして、各社のコンテスト作品から新進のデザイナーのブース、ジュエリーカレッジの生徒による作品、彫金カレッジの生徒の作品まで展示されており、見応えのあるものもあり刺激を受けたのだが、主要産業のひとつとして政府もバックアップするこの国の宝石産業の大きさを感じて取れるものであった。